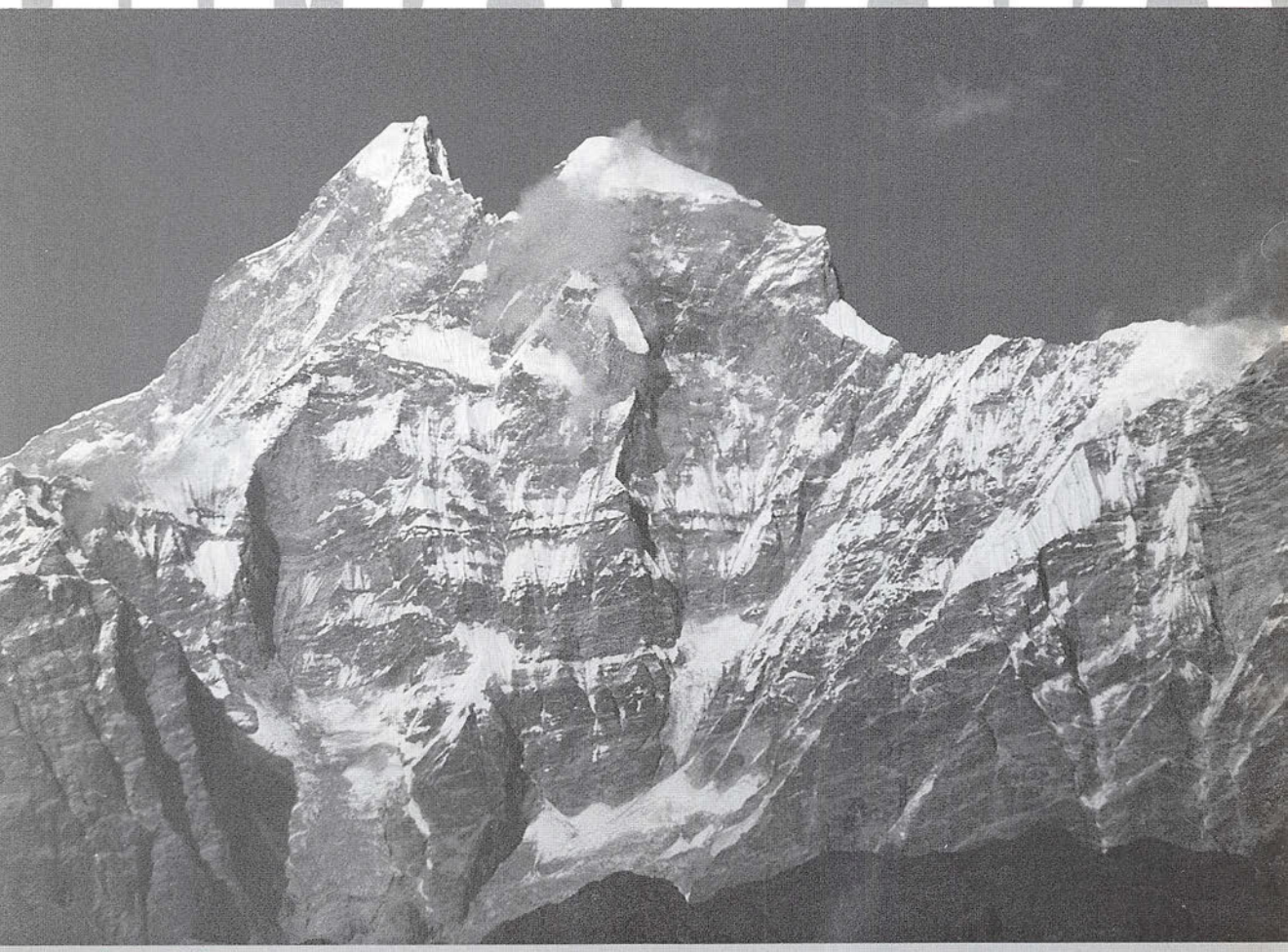
昭和51年5月9日第三種郵便物認可　平成9年3月1日発行（毎月一回1日発行）　ISSN 0385-5457

HIMALAYA

ヒマラヤ

No. 304



1997 MARCH

日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN——HAJ

平成９年度から年会費が１万円になります

ＨＡＪの通常会員の「年会費」が、平成９年度（平成９年４月１日～平成10年３月31日）分から１万円となります。

これは平成６年５月に開催された理事会において年会費の改定が検討された過程で、当時６千円から１万円に改定するにあたり、段階的に８千円を経て平成９年度から１万円と決定されたものであります。皆様のご理解をお願い致します。

年会費は前金制となっておりますので、６月30日までに納入をお願いします。

ニンチン・カンサ募集

ラサから半日行程の所にヤムドク・ツォと呼ばれる大きくて美しい湖があります。その湖を見下ろすようにそびえているのが名峰ニンチン・カンサ（7,206m）です。

ＨＡＪの登山隊は全てガイド登山ではありません。自己責任を認識して登山隊を構成します。

記

1. 期　　間:1998年７月19日～８月25日（38日間）
2. 募集人員:10名程度
3. 負 担 金:80万円
4. ✓ 切 り:定員になり次第
5. 申し込み:ＨＡＪ事務局まで

ヌン（7,135m）募集

インド・ヒマラヤのサマーキャンプとして、1998年夏もカシュミール・ヒマラヤで開催します。

カシュミールの盟主ヌンの高峰登山とラダックの素晴らしい雪上のヒマラヤの旅が楽しめます。

記

1．期　　間:1998年７月19日～８月23日(36日間)
2．隊　　員:10名
3．費　　用:75万円
4．✓ 切 り:定員になり次第
5．申し込み:ＨＡＪ事務局まで

表紙写真

今回（96,11）のトレッキングは、地元の人にも数人しか会えぬ静かなルートだった。その間、たえず顔を見せてくれたのが、ガウリシャンカール（7,034m）の雄姿。

ネパール側から登山許可対象のリストにあるが、実際には許可されるのは困難らしい。一昨年拝んだマチャプチャレ（6,993m）と、「神の山」に人が近づけるのはいつのことだろう。

〔ハヌマンテ・ピーク（3,080m）から　江尻健二〕

ヒマラヤ No.304

1．インド・ヒマラヤ1996年
8．中高年？　ヒマラヤ流れ旅（12／終）　阿部　淳
12．小カラコルムからパミールへ(3)　岩崎　洋
16．ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・トピックス・Books〉
18．ネパール登山の手引き(2)
21．クーラ・カンリ登山計画
24．寸感・事務局日誌

第18回インド・ヒマラヤ会議報告
1996・1・12

新春恒例のインド・ヒマラヤ会議は、今年で第18回を数えたが、1月12日池袋のかんぽヘルスプラザ東京会場で開催された。

会議には、全国各地から、96年登山実施隊や97年にインド・ヒマラヤへ出かける予定の登山隊の方々等36名の参加をみた。

ＨＡＪの山森欣一専務理事の開会の挨拶の後、会議日程に入った。

－日程－

9：20～11：50　「1996年インド・ヒマラヤの総括及び許可取得から出発までの実務ノウ・ハウ」

ＨＡＪの寺沢玲子常務理事から96年の入山状況、入域事情、登山規則の変更、出発から現地での渉外業務のノウ・ハウなどについて、引き続いて中川裕常務理事から隊荷通関についての説明があった。また、インド・ヒマラヤでの登山経験豊富な尾形好雄常務理事から、自身の体験を踏まえての具体的なアドヴァイスや質疑応答があった。

入山状況では、ＩＭＦからの仮許可取得後に内務省からの不許可連絡を受け、時間切れのために遠征を断念したインドのボンベイ登山協会隊や日本隊の話が興味を引いた。

登山規則関係では、96年秋からの登山料の値上げや、有事の際を考慮しての救援者費用をカバーする保険加入の再度の要請が、ＩＭＦからあった事などの説明があった。

隊荷通関関係では、94年4月からアナカン扱いではなく、一般貨物として扱われる事になった事の再確認の説明があった。また、ガス・カートリッジや医療用酸素ボンベの輸送については関心が高く、危険物の輸送方法、現地での入手方法やＬＰＧガスボンベからのリチャージの方法などが、一般参加の方々からも体験談を交えて紹介された。

エントリー・ヴィザ申請の留意点などについては、例年と同じように注意事項の説明がなされた。

13：00～15：00　「1996年登山隊報告」

栃木県南地区山岳協議会隊のヌンの報告（梅山義弘氏）、栃木県庁谷峰会隊のＫＲ-4の報告（大橋隆氏）、ＪＲ関東山岳連盟隊のホワイト・セイルの報告（知久隆氏）がそれぞれスライドを交えて行われた。

15：15～16：10　「現地情報」

当日飛び入り参加して下さった、マナリ在住の日本勤労者山岳連盟前会長森田千里氏より、インド全般の最新情報や興味深いトレッキング・エリアの情報を語って頂いた。

16：10～16：30　「事故対策と処理」

山森欣一専務理事から、ヒマラヤ登山の遭難事故の実態と事故原因などの簡単な説明があり、登山隊の計画書の記入内容のアドヴァイスと、ＨＡＪへの計画書送付協力依頼があった。尚、「事故と環境対策」については、3月23日に研究会を催すので是非参加して頂きたい旨のアピールがあった。

これで予定の会議日程を終了し、八木原圀明常務理事の挨拶で閉会となった。

インド・ヒマラヤ1996年入山状況

インド登山財団（ＩＭＦ）によれば、1996年インド・ヒマラヤを訪れた外国登山隊は47隊で、前年に比べて19隊の減少であった。

国別では、イギリスが10隊、次いで日本とスペインが7隊、韓国5隊、オーストリア4隊、アメリカ（米印合同隊1隊を含む）とフランスが3隊、オーストラリア、シンガポール、チェコ、ドイツ、ポーランド、イタリア、カナダ、マレーシアが各1隊となっている。

入山地域別では、ウッタル・プラデシュ州が26隊と相変わらず人気が高く、ジャム・カシミール州が10隊、ヒマチャル・プラデッシュ州が7隊、シッキム州が1隊、その他不明が3隊となってい

る。

日本は7隊と、前年に比べて5隊の減少となった。内3隊はＩＭＦからの登山許可の内諾を受けた後、内務省からの許可取得がスムーズにいかず、登山を中止している。

一方、インド隊の方は97隊と、前年に比べて30隊近く増加した。もっとも、インド隊の入山状況はＩＭＦでもよく把握できておらず、現時点では定かではない。

先にも触れたように、96年はＩＭＦからの許可内諾を受けながらも、内務省からの許可取得がスムースにいかずに、時間的な制限から登山中止を余儀なくされた登山隊や、正式許可を取得しながらも、活動中に陸軍から退去させられたインド隊など、トラブルがあった。

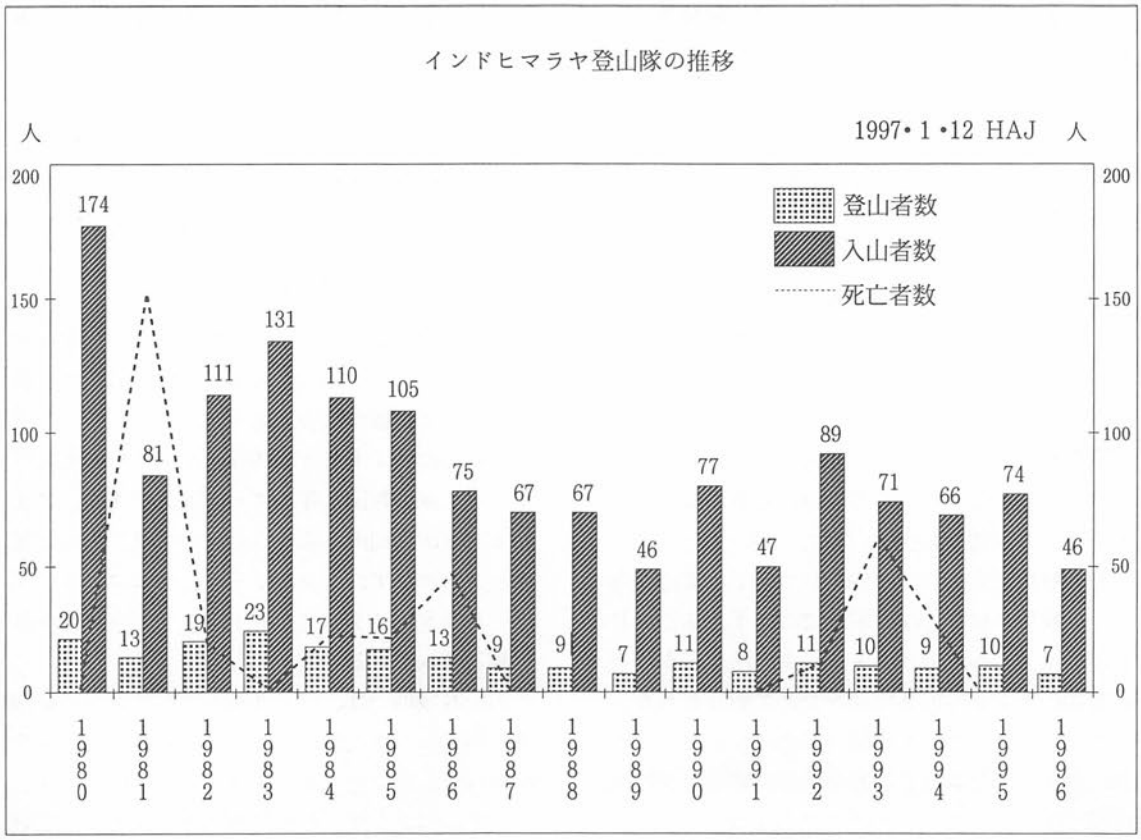
ハリシュ・カパディア率いるインドのボンベイ登山協会隊が、東部カラコルムのチョン・クムダンⅡ峰（7,004m）の試登後、インド最北端に位置するシアチェン氷河のインディラ・コルを目指したところ、インド陸軍に許可を取り消され、遠征の中止を余儀なくされた。

日本隊も、ヒマチャル・プラデッシュ州では、登稜会ディオ・ティバ登山隊の柳穣氏が単独入山を認められずに断念したのを始め、同じくヒマチャル・プラデッシュ州のチャウチャウ・カン・ニルダ（6,303m）を予定していた群馬県高校教職員登山隊（大沢清隊長）は、二転三転の後、最終的には許可を取得したものの、時間切れで断念した。

また、ウッタル・プラデッシュ州のガンゴトリ地域でも、日本香港登山隊（成末洋介隊長）がラクタバン氷河左岸の未踏の無名峰（6,803m）の仮許可受諾後、ヴィザ申請の段階で不許可を知らされ、代替の山の申請をしたものの時間切れで断念した。

1980年以降の日本隊の推移は、下記表を参照願いたい。

日本隊の遭難事故は、前95年、96年と2年続いてゼロを記録しており、入山数に対する死亡率は、2.5%と若干低くなったものの、過去17年間の死亡者数は36名と云う多さである。



1996年インド隊の記録

山　　名	標高	隊　　名	隊　長	期　間	結果
Gya	6.794	The Climbers	Arum Samant	4／15～5／15	×
Phawararang	6,349	Jadavpur University	S.K.Chakraborty	4／20～5／19	○
Thelu Koteshwar	6,002 6,035	Altitudes High Adventure	Col. J. C. Joshi	5／10～6／10	○ ○
Kedar Dome	6,830	South Culcutta Trekkers Ass.	Dipen Samanta	5／20～6／20	
Panch Chuli-Ⅱ -Ⅲ	6,622 6,314	The Explorers & Adventurers	D. R. Muni	5／5～6／6	× ×
Jogin-Ⅰ -Ⅱ -Ⅲ	6,456 6,342 6,116	Yashwanti Hikers Khopoli	J. B. Deshmukh	5／15～6／15	
Chaukhamba-Ⅰ	7,138	Parvat Abhiyatri Sangha	Shamal Sarkar	5／5～6／4	
Baljuri	5,922	Youth Adventure Ass.	Amarshi Dharajia	5／15～6／15	○
Kedar Dome	6,830	Saad Mountaneers	Rarjan Desh Mukh	5／1～5／30	○
Rataban	6,167	Charai-Utrai Kidderpore	P.K.Bhattacharjee	5／15～6／15	
Sudarshan Parbat	6,507	Mountaineer & Climber's Circle	Saumitra G.	5／1～5／30	
Snow Corn Unnamed Peak	6,225 6,187	Variant Mountaineering Club	Prajapati Bodhane	5／6～6／15	○ ○
Kamet Abi Gamin	7,756 7,355	Pune Venturers	N. H. Shelar	6／15～7／15	×
Kedar Dome	6,830	Mountaineers Ass.	Satish Gaikwad	6／15～7／15	○
Gya	6,794	Himalayan Trails & Treks	Yousuf Zaheer	6／15～7／15	×
Mamostong Kangri	7,516	Mountaineering & Allied	Rajeev Midha	6／10～7／10	
Jogin-Ⅲ	6,116	Rajaram Adventure Sports Ass.	B. T. Madhavi	6／1～6／30	×
Hanuman Tibba-Ⅰ Makar Beh	5,928 6,069	Utkarsh Sports Ass.	Pradip Raver	6／1～6／30	
Chong Kumdan-Ⅱ	7,004	The Mountaineers	Harish Kapadia	6／20～7／4	×
Baljuri Bhanoti	5,922 5,645	Rocks & Snow	Dibhas Das	6／15～7／15	× ○
Thelu	6,002	R. I. M. C	Col. N. P. Yadav	6／2～7／15	
Stock Kangri	6,153	Welham Boy's School	V. K. Panuli	6／4～6／17	
Siachen Glacier		The Mountaineers	Harish Kapadia	7／5～9／1	資料参照
Kharcha Parbat	6,270	The Climber's Group	Sujit Rit	7／10～8／15	○
Kalanag	6,387	Fon. for Nature Expl.& Env.	Mohan K. V.	7／1～8／2	○
Indrasan Deo Tibba	6,221 6,001	Snowland Mountaineers Assmb.	Samir Sengupta	7／15～8／14	×
CB-13 CB-46	6,264 6,005	Shailbrhamar, Thane	S. K. Borse	7／8～8／8	
Chhamser Kangri Lungser Kangri	6,622 6,606	IPCL	R. Z. Rana	7／15～8／15	○
Lopgo Chhamser Kangri Lungser Kangri	6,405 6,622 6,606	Himalayan Medical Camp	Malan Nag	7／1～7／30	× ○ ×

山　　名	標高	隊　　名	隊　長	期　間	結果
Kang Yisay	6,400	Kutch Trekkers	C. S. Mistry	7／15～8／15	
Fluted	6,122	Central Railway Adventure	A. B. Kulkarni	7／21～8／19	○
Dong Rimo	6,160	Rock Climbing School	Rajni Rakshit	7／28～8／19	×
CB-13 CB-13a	6,264 6,240	Climbers Circle	Moniral Hagus	7／29～8／28	○ ×
Kulu Pumori	6,553	CGDA Adventure Club	S. S. Sandhu	7／8～8／4	○
Jogin-Ⅲ	6,116	Techlife	Nakrand Godbole	7／1～7／30	
Unnamed Peak (HP)	6,318	Sahyagiri Trekkers	Makarand S.Pendse	7／20～8／20	
Tanak	5,992	Kashmir Mountaineering Team	S. Hussain Mir	7／21～8／7	○
Kedar Dome	6,830	Karnataka Mountaineering Ass.	S. Sudhakar	8／15～9／15	○
Kalindi	6,103	Mainak Explorers	Ashok Kumar Ghosh	8／15～9／15	
Menthosa	6,443	Layul Mountaineering & Skiing	Col. Prem Chand	8／10～9／10	
Gangstang	6,162	Santragachi Shailo Sathi	Soumajit Roy	8／1～8／30	○
Jogin-Ⅰ -Ⅱ -Ⅲ	6,456 6,342 6,116	Alpine Trekkers	Ashok Basu	8／17～9／16	
Tharkot	6,099	Howrah Mountaineering Club	Naresh Sabharwal	8／15～9／15	×
Swargarohini-Ⅰ -Ⅱ	6,252 6,247	Himalayan Trekkers Mt'neers	S. S. Negi	8／1～8／30	× ○
Lepsadhura	5,913	NCC Boys	Maj. D. M. Pant	8／24～9／16	
Gulap Kangri	5,900	Himadri	Asit Kumar Paul	8／8～9／7	
M-10	5,852	Ordnance Factories	Ashim Kumar Ghosh	8／15～9／10	○
Rudugaira	5,819	Climbers & Mountaineers	P. Gavande	8／15～9／10	○
Bhagirathi-Ⅱ	6,512	Crescent Club	Rajesh Mukherjee	8／15～9／15	
Chandra Parbat Unnamed Peak	6,728 6,739	Himdoot Mountaineering Ass.	Mihir Kumar Ghosh	8／23～9／25	×
Jogin-Ⅱ -Ⅲ	6,342 6,116	Ordnance Factry Trekkers	Samir K. Guha	8／1～8／30	
White Sail	6,445	Howrah Mountaineer & Trekkers	N. P. Rao	8／1～8／30	
Guan Nelda-Ⅱ	6,158	Scout Adventure Ass.	Arun Pati	8／15～9／15	
CB-14 -17 -18 -19	6,078 — 5,890 —	The Explorers Adventureres	Parekh Vijay	8／21～9／25	
Chamser Kangri Lamser Kangri Lopgo	6,622 6,666 6,405	The Explorers Ass.	Ms. Purnima Soran	8／1～8／30	○ × ×
Stock Kangri Gulap Kangri	6,153 5,900	APO Ladies Expedition	Smt. V. Srinivasan	8／10～8／30	○
Kangla Tarbe	6,325	Calcatta Trekkers Youth	Gopal Roy	8／9～9／17	○
Bhanoti Tent	5,645 5,961	Officer on Special Duty	R. Bhardwaj	8／25～9／24	○ ○
Kamet	7,756	Vashist Rishi	B. M. Paul	9／1～9／30	
Kamet	7,756	Mountaineers' Ass.	B. S. Roy	9／1～10／14	×
Papsura	6,451	Kamarhati Trekkers Ass.	Pradip K. Kar	9／1～9／30	

山　　名	標高	隊　　名	隊　長	期　間	結果
Bhagiarthi-Ⅱ	6,512	RUPTAPAS	Gautam Mukherjee	9／10～10／10	
Gangotri-Ⅲ	6,577	CESC Sports	Prasant Roy	9／1～9／30	
Bhagiathi-Ⅱ	6,512	HQRS.	Capt. Uks Raghav	9／1～9／30	
Deo Tibba	6,001	Assam Advebture Foundation	Jayant Kr Roy	9／1～9／30	○
Trisul-Ⅰ	7,120	SPARK	Mohan K. V.	9／15～10／15	
Gorichen-Ⅰ	6,488	Himapathik	Ujjal Chakraborty	9／15～10／31	
Tharkot	6,099	AAROHI	Baban P. Singh	9／9～10／8	
Unnamed Peak (AP)	6,062			9／15～10／15	
Chaukhamba-Ⅰ	7,130	Gahrwal Lifles Re.	Col. A. P. Singh	9／16～10／18	
Sri Kailash	6,932	Himalayan Beckon	Biswadeb Ghosh	9／1～9／30	○
Sudarshan Parbat	6,507	Nandadevi Mountaineering Fon.	S. P. Doiphode	9／15～10／15	
Nar Parbat	5,855	Chndannagar Mountaineering	Kalyan Banik	9／1～9／30	○
Hanuman Tibba-Ⅰ	5,928	Nature Club	Anand Vaidya	9／15～9／30	
Gangotri-Ⅱ	6,590	Durgapur Mountaineering Ass.	Arvind Patel	9／1～10／5	○
Unnamed Peak (UP)	6,038	Sonrpur Arohi	D. Mukherjee	9／1～9／30	
Unnamed Peak (UP) do do	6,587 6,796 6,000	JNU Mountaineering Club	D. K. Dube	8／15～9／15	
Shilla Lhakhang Runse	6,132 6,250 6,175	Explorers	Pranay Bordoloi	9／1～9／30	
Stock Kangri Gulap Kangri	6,153 5,936	Mountaineers' Youth Ring	Samorosh Saha	9／1～9／30	
M-8	6,096	Shikhar Mountaineering Club	Dr.S.R.Chowdhury	9／3～10／3	
Nanda Bhanar	6,350	The Climbers	K. V. Mohan	9／8～10／4	
Nanda Ghunti	6,390	Kanchenjunga Foundation	I. Mukherjee	9／26～10／25	
Thelu	6,002	Guwahati College	Tarun Saikia	9／15～10／15	
Rudgaira	5,819	Paragliding Ass.	Capt. A. Kumar	9／27～10／12	
Panch Chuli-Ⅱ	6,904	TSAF	P. C. Sahoo	9／1～10／15	×
Bandar Punch Main -Ⅲ	6,320 6,102	Nature & Sports	Mahadeb Thakur	9／10～10／10	× ○
Baby Shivling	5,686	Paraworld Adventure	Tapar Sharma	9／1～9／20	
Barmai	5,879	Parvatarohi	Ranvir Singh	9／19～10／16	
Gorichen Main	6,496	APO		10／1～10／30	○
Sugar Roaf Kanchengyao	6,455 6,889	Bally Bhagirathi	Ujjawal Ganguly	10／1～11／15	
Plack Peak	6,667	Bhadrakali Padatik	Bibuthi Paul	10／1～10／31	
Lamchir Baljuri	5,662 5,922	NCC Girls		10／1～11／5	
Panch Chuli-Ⅰ～Ⅴ		Adventure Lovers Ass.	R. S. Airy	10／10～11／10	
Baljuri	5,922	Himalayan Mountaineers	Alok Shan	10／6～11／6	
Unnamed Peak	6,635	IBEX Adventure Club	J. S. Gulia	11／1～12／15	

1996年外国隊の記録

山　　名	標高	隊　　名	隊　長	期　間	結果
(U. P)					
チャウカンバ-Ⅰ	7,068	韓国	Mam Ki-Chang	4／12～5／26	○
テレイ・サガール	6,904	韓国	Jae Hong Ahn	4／19～5／31	×
チャンガバン	6,866	イギリス	Rogr Payne	5／12～6／22	×
チャトランギ-Ⅲ	6,393	スペイン	Jos M. J. Bravo	5／2～5／30	○
ジョギン-Ⅰ	6,456	シンガポール	L. J. K. Justin	6／7～7／7	○
ナンダ・デヴィ東峰	7,434	韓国	Jeong Jeon-Mo	7／21～9／12	○
テレイ・サガール	6,904	スペイン	Pedro R. Sanchez	7／27～8／31	×
ガンゴトリ-Ⅰ	6,672	帯広わらじの会	森実　裕	8/28～10/16	○
バギラティ-Ⅲ	6,454	スペイン	Juan Padilla	8／15～9／15	×
バギラティ-Ⅲ	6,454	スペイン	Ruiz B. Jesus Maria	8／22～10／8	×
テレイ・サガール	6,094	アメリカ	Jordan K. Smith Jr.	8/15～10/20	×
メルー	6,660	オーストリア	Andreas Orgler	8／20～9／30	×
シヴリン	6,543	韓国	Min Ho Park	8／28～9／30	○
サトパント	7,075	スペイン	P. M. Zurutuza	8/25～10/10	×
マナ・パルバット-Ⅰ	6,794	韓国	Min Kyu Chung	8／15～9／20	○
タルコット	6,099	イギリス	Pankaj Kushwara	9/14～10/13	×
シヴリン バギラティ-Ⅲ	6,543 6,454	アメリカ	Mark Alan Richey	8／20～10／2	○ ○
ブリクバント テレイ・サガール	6,772 6,904	チェコ	Karel Sykora	8/30～10/16	○ ○
シヴリン	6,543	ドイツ	Walter Hadersdorfer	10／7～11／3	○
テレイ・サガール	6,904	オーストラリア	Athol Thomas Whimp.	9／1～10／11	×
メルー	6,660	松本Clmbing Mate C	馬目　弘仁	9/11～10/22	×
ナンダ・グンティ	6,390	イギリス	Andrew Donaid Nisbet	9／12～10／6	×
トリスル-Ⅰ	7,120	ポーランド	Michal Jaworski	9／1～10／29	×
バルジュリ ラムチー	5,922 5,662	イギリス	George Richard Healey	9/15～10/12	○ ○
バギラティ-Ⅲ	6,454	カナダ	Graham Rowbotam	9／1～10／12	○
(J & K)					
カン・ユセー	6,400	オーストリア	Hans Fischlmaier	6／22～7／13	○
ヌン	7,135	フランス	Denis Chatrefcu	6／29～8／3	○
ストック・カンリ	6,153	鳥取山岳協会	山本　悟	7／24～8／11	○
ヌン	7,135	オーストリア	Erich Resch	7／6～8／4	○
ヌン	7,135	栃木南地区山岳協議会	梅山　義弘	7／25～8／23	×
サラ・シュワ	5,800	オーストリア	Ms. G. R. Olmuller	7／15～8／6	○
クン	7,077	フランス	Michael Pelle	7／26～8／20	×

山　　名	標高	隊　　名	隊　長	期　間	結果
クン	7,077	スペイン	Joseba A. Uriaguereca	8／15～9／12	×
クン	7,077	フランス	Franck Marginier	8／2～9／1	○
ストック・カンリ	6,153	イギリス	Tim Bird	8／2～8／23	○
（H. P）					
CB-14	6,078	東京学芸大学	村上　芳男	7／25～8／29	○
KR-4	6,340	宇都宮県庁谷峰会	上杉　純夫	7／25～8／23	○
KR-4	6,340	イギリス	Michael Roy Francis	8／11～8／31	×
ムルキラ-10	5,875	イギリス	John D. Rose	8／2～8／31	×
ホワイト・セイル	6,445	JR関東山岳連盟	桜沢　善之助	8／11～9／22	○
クル・アイガー	5,646	イギリス	Craham E. Little	8／31～10／6	○
サウス・パルバティ ピラミッド	6,127 6,036	アメリカ／インド	米／Donald J. Goodman 印／Cap. Villa	9／7～10／13	○ ○
（Sikkim）					
グルドンドマール チョンブー	6,715 6,362	イギリス	Douglas Keith Scott	9／10～10／30	× ×
（その他）					
無名峰 無名峰	6,026 5,960	イギリス	Graham David Williams		× ×
無名峰（Tindrusi）	6,004	スペイン	Roman B. Diaz	8／1～8／26	○
無名峰	5,988	イタリア	Massimo Marcheggiani	9／6～10／5	○

東京新聞の本

山の情報誌 岳人

GAKUJIN
岳人

毎月15日発売（日・祝日の場合は前日）定価670円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。
直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からとお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。
郵送料は通常号116円、特大号124円です。
年間購読料は8,480円で送料は当社負担です。
お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

97年	第1特集	特別企画
★1月号	日本の雪山大作戦	南米インカ・トレイルを行く
2月号	富士見十三州の山	春のフンザとバルトロ氷河
★3月号	山スキー大滑降	ネパールの夢のトレッキング
4月号	アルプスの雪稜	初夏のロッキー特選コース
★5月号	花と森の山旅	中部の山岳会と奥美濃の山
★6月号	私の花の名山	創刊50年　世界のアルピニストたち
★7月号	今から間に合う海外の山	仙台のクラブ、東北の沢を行く
8月号	みちのくの山と沢	屋久島の緑深い峰々と人
9月号	修験の山は名山	山の達人と訪ねる秋の北海道
★10月号	紅葉の山、尾瀬と南会津	撮影クラブと秋の大峰山脈へ
11月号	晩秋、湯けむり紀行	フリークライミング天国・岡山
12月号	身を守る雪山技術	冬の奥秩父に生きる山人たち

（★は 特大号となります）

東京新聞出版局（中日新聞東京本社）〒108 東京都港区港南2-3-13 ☎(03)3740-2674
書店で発売中。中日新聞販売店でも取りつぎます。

旅のつれづれ

阿部　淳

（1）旅のエンディング

●インドからネパールへ戻る

7／30、夜遅くホテルに着いて、その清潔さに驚き、白いふとんに思わず頬ずりした。久しぶりのバスタブでガンゴトリの汗を落とし独りビールで乾杯すると、もう旅を懐かしむだけで良い解放感と一抹の虚脱感が酔いを早める。その夜から三晩、旅の夢を見た。ガンゴトリの白い道を行くと大きいマンダラに突当たり、そのアシュラムから細い厳しい道が続いて門が現れたが、それは開けて貰えなかった。きっと、ゴウムクからガンゴトリ氷河を奥へ進みたかった、その後ろ髪だったのだろう。そして門は、雨で引返したスルカンダ・デビィの、くぐらなかった門のようだ。次の夜は、ジャオンリＢＣから頂きへ進む夢だった。きっとＢＣへ行き頂きを見たかった思いだったに違いない。そして３日目は確かにカンジロバの峠へのアプローチであったが、それは逆に西から辿るジャオンリに変わっていた。緊張感もストレスも緩んだばかりで、もうソレが懐かしいのだろうか、あるいはまた戻りたいとでも言うのだろうか。

インドでの残務は、シカール社の精算（少し戻しがあった）はすぐ終って、ジャオンリ隊の遺品の件だけであった。この春ＢＣ付近で発見したと言う隊長とは電話で話せたが、すぐボンベイに出張すると言うので遺品の確認はできなかった。クマール社長に日本隊の物かどうかの確認を頼み、近くデリーに戻るＨＡＪヌン隊の中村喜吉隊員（札幌）に後の処置をお願いした。あとは懐かしいインペリアル・ホテルでビールを飲み、近くのRNALオフィスでチケットを仕入れて、８／２カトマンズに飛んだ。あ～、帰ってきた。

●ラスト・デイズ

カトマンズでは、あと帰るだけの３日間、友人達への挨拶と旅の名残りを惜しめばそれでよかった。モンスーンで今日も雨なのに、気持ちはスカッとして爽やかだ。大津さん宅に招かれて旧交を温め、Jai-Himal に立ち寄って今村（ＨＡＪの古い会員）パーティのロールワリン情報の返事を確認したり、帰日までの休日を楽しんだ。

離れる８／５の昼、観光次官のP.M.シュレスタさんがホテルへやってきて“天気が良いからナガールコットにピクニックに行こう”と言う。車には奥さんと娘さん２人と、登山局長のH.S.シュレスタさん、途中で奥さんの姉さん夫妻を加えて計８人の楽しいヒト時となった。丘の上は、91年にワイフと訪れた時は何も無かったのに、この４年でホテル・ヒルに変わってしまった。山は雲に覆われて隠れていたが、Tea House Innのベランダ・レストランの日向は、青空が大きくて気持ちがいい。案内された隣の建築中の豪華ホテルの部屋からは、エヴェレスト山群を一望できると言う。ナガールコット・トップに寄って、夕方ホテルに戻り、その夜、RNALで関西空港に向かった。ナマステ、ヒマール。

（2）旅の心

●ハートさまざま

もともとは、経済競争社会に35年間揉まれてボロボロになった心を、新たに創り直そうとも思った。一切の束縛・規律・枠組から逃れて心をリストラするには、見果てぬヒマラヤをアテもなく彷徨うエンドレス・ワンダーしか、僕にはなかった。それが、思い出すだけでドキドキ興奮してくる、あのトキメキは何なのだろう。

①｛ハプニング｝古い昔に燃え切れずに終った筈の残滓が、再び燃えさかったのだろうか。登山とは違って登頂目標はないから、際立った達成感も生まれない代わりに挫折感もない。成り行きに身を任せながら、その場その場のハプニングでベストと思う方法を考えれば、自ずとベターな方向に進んでいく。全て決めてから行動するのでなければ、全てをハプニングだと受け止めれば済む。

②｛開き直り｝初めの頃は“明日は12km.1600mの登りで500mの下りダ、着くのは4時半か”などと計算もしたが、毎日続けば“また朝から夕方まで登って下って歩きやぁいいイイんだろぅ”と開き直るとすごく気がラクになる事を知った。

③｛自分イジメ｝難所や疲労続き、明日の不安などでは、つい怯んで逃げ腰にもなる。そんな時はイジメが効果的だ。“男が泣きベソかくな！”それとも老人病院のベッドでヌクヌクと永眠したいのか?! それなら始めから来なけりゃよかっただろう！。

④｛鼓舞｝カトマンズやイスラマバードで町に長くいると早く出たくてムズムズしてくる反面、山で長くなると疲れや暑さや慢性化で、ボケーッとただ歩いている事がある。そんな時は“おい！お前はパキスタンにいるんだゾ。今、ヒンズークシュのコルに上るんだゾ！”意識を鼓舞してハッとさせると、“アッ”と再び燃えてくる。

⑤｛説教｝時には“これだけ歩いて登ったんだから、もうそろそろ良いじゃないか”とラクを促すから、時には訓示を垂れて自己叱咤し、原点に引き戻す必要もある。（一）この旅の“初心”を忘れるな！（二）果たせなかった青年に還れ！（三）40年の“時間のしがらみ”を切れ！（四）“目的に”ではなく“今、居る事”を楽しみ充実させよ。（五）乗らずに歩く誇りと喜びを持て！（あ～、これはまるで初心高齢登山者に対する説教だ）

⑥｛みんな一緒｝今回ヒマラヤ三国を巡った訳だが、それぞれの国や村や人に対する異文化や相違に興味を持っても、自分を異邦人として見る必要はなく、ビジネスはビジネス、それ以外は“みんな一緒”の同居者感覚で接する事ができた。トラブルに際しては、事態や集団・人を解決のための対象物として客観的に把える…つまり、ベンチからマウンドのトラブルをコントロールしている感じでよい。

⑦｛原点｝決定的なトラブルが無かった事にもよるが、登山でもいつも“迷ったら原点に還れ”を心掛けてきた事がここでも通じた。それにより自分の路線を立て直せるし、たとえ誤っても道が正しければ再出発できる。

●旅のスペシャリティ

▼ガンゴトリで旅を終る

・国感覚　ネパールは、My home 感覚。治安、信頼、支援体制良く、費用安い。安易。トレックも定番コースを離れれば新鮮、他は山岳観光化。

インドは、お隣り感覚。地域・人で差、両極端で不統一。興味豊富。山・コース・Ajent も選択次第。静かさ楽しさ、新鮮さも。

パキスタン、よそ行き。国施策浸透。治安・信頼・支援欠き、常に要注意。山・コースは広域で選択性。宗教支配性に興味。酒が不便。

・感激　①カンジュラルワとの邂逅②偶然のタルヌー谷のヒュッテ（ダウラダール）③予想を超えるメルヘン・ヴィーゼ（ナンガ・パルバットとアルプ）㊟スカルド・バリーからヌブラ（ショーク）流域の山

・恍惚　①フォクスクンド湖の七変化②聖なるガンジースロワル（チョラバリ湖）③雪のキャンジン（ランタン谷）の日向

・感謝　①校庭Camp快諾のワリモー村校長さん②楽しかったガネッシュでの娘ポーター③旅券問題で意気統合したスカルド警察署長さん

・贅沢　①カチュラ湖のシャングリラ・リゾート②カングラ・バリーのタレガル・パレス・H③タルヌー谷のメルヘンハフトなウデッチー・ハット

・峠印象　①カグマラ・ラのカンジロバ山群展望②ヤクと湖と雪のシャンドゥール・パ

ス③ヒンズークシュとズニゾムの見えるザニ・パス

・山展望　（上記以外）①ハニーパス下からのジャグドゥラの山々②チョラバリ湖からのケダルナート山群③ＢＣからのウルタル㈱いつも見たラカポシ、雲間のトリスル・シブリン

・恐怖路　①死の匂い漂うラキオト谷のジープ道②細く険しいヒスパー・ナガールへの崖道③融雪時がこわいフーシェ・バリーの道

・失望　①登山基地でなかった中都市スカルド②シク行列とドンキー公害のヘムクンド③ビジネスに走るカラシュ族ウーマン

・未達成　①雪に拒まれたガネッシュ氷河②雨に拒まれたシャハーンドク・アプローチ＆タルコット峠③モンスーンでヤメたガンゴトリ氷河

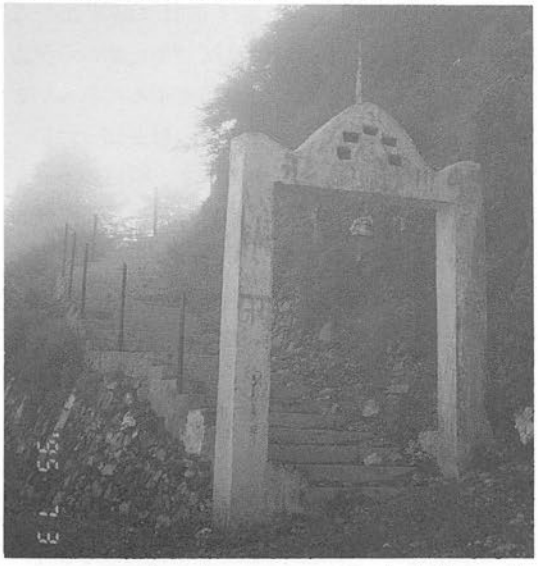
・独り旅　＜＋＞①モテる②マイペース③臨機応変
＜－＞①高く付く②シェルパ本位に流れ勝ち③どんぶり勘定

●旅の音楽

今回きっと長旅になり、様々な心境変化に対応する音楽が必要になると思って、初めて音楽テープを120分×８本持参した。音楽は個人的な好みに帰する事であるが、その想像された心境は（作曲者は例）①爽快・うきうき（ハイドン、モーツアルト）②希望・憧れ（ドボルザーク）③孤独・郷愁（シューベルト、ブラームス）④沈静・やすらぎ（モーツアルト、ショパン）⑤鼓舞・勇気（ベートーベン）⑥挫折・厭世（西村朗、佐藤聡明）などで、多くはインティメイトな室内楽であった。

・良かった曲　ハイドン（イタリアＱ＝日の出、ひばり、ラルゴ）、ドヴォルザーク（ハーゲンＱ＝アメリカ、糸杉、ロストロ＝チェロ協）、コントラバス（ゲーリー・カーは一番聴いたし特に“日本の詩情”）、ベートーベン（カラヤン＝三重協、ロストロ＝チェロＳ、切り札はＰ協だったが聴くに至らなかった）など心境の①②③であり、いずれも素晴らしかった。

▼夢に現われたヌルカンダ・デヴィの門



・不要だった　モーツアルト（中途半端）、ショパン（夜想曲。Ｐソロならリスト、ブラーム）、西村・佐藤（⑥の心境ナシ）、ヴァイオリン・ソロ。

・欲しかった　黒人霊歌（ノーマンの魂の祈り）

音楽は、ヒマラヤでこそ最も美しい（日記から）

『今日はランタンの山に囲まれたキャンジンの休日だ。陽が雪の谷に燦々と降り注ぐ。風は冷たいけれどロッジの庭に出て日向ぼっこ。下の村から日本人女性２人が上ってきて、“今日は”。ハイドンの弦楽四重奏「ひばり」が周辺の白い山々に飛び舞い、「ラルゴ」がこの谷の奥のガンチェンポにまで響き渡る。贅沢なヒマラヤの休日だ。ほら、ラルゴの第２楽章だ！これだ、この緩やかなアリオーソの流れは悲しいまでに夢を誘う。今度は「アメリカ」…、ドボルザークの最大の遺産だ。そう言えばこの旅は、僕の一生の遺産だと思う。そして昨年ワイフと歩いたカリガンダキ・トレックも、きっと夫婦としての何よりの遺産に違いない。他に何もない。あ、希望に燃える第３楽章だ。歌え、ハーゲン！望郷のクレッシェンドだ。』

・佳い音楽は、美酒を求める。

『テントの入り口をもっと開けよう！暮れゆくフォ

クスクンドの風と匂いと波打つ音をテント一杯に誘い入れよう。ゲーリー・カーのコントラバスと琴の調べは「この道」だ。そうだ、この道はいつか来る筈だったカンジロバの道、満たされる事のない悔しさの道だ。諦めはピークに立つ事よりも、ヒマラヤの諦めであり、人生の望みの諦めでもあった。せめてここに来ずして無念さを精算できる筈はなかった。

惜しめ、灯を消せ！　山の端に架かった半月が、黒い山影を映す闇の湖面に揺れている。謳え、飲め、そして湖の独白を聴け。あ〜、こんなに酔える、燃えれる夜が欲しかったのだ！この美酒を迷わず飲め！灰色に包まれた湖面に、バッハの「主よ、人の望みの喜びよ」が流れる。魂の叫びを鎮めて浄化する、祈りの曲だ。この届かぬ神秘の世界と、自分の何も成し得ない哀しみに、祈る他に何が出来よう。「悲しみの歌（深い川）」がフィナーレを嘆き惜しんで去って行く。もう何もない、祈りすらもなく…。せめて闇に沈むフォクスンドと、今宵、陶酔の世界に眠らせてくれ…』

（3）フィナーレ

もしかしたら、この旅はヒマラヤへの別れをも予感できた旅だった。失われた過去のヒマラヤを求めて、或いは希望を諦めたが故のセンチメンタリズムを満足させて、思い残す事のないように今のうちに済ませてサッパリしたかった。既に先に求める意味を捨てたし、思い出を創る必要もなくなっていた。以前のように村や人の写真をあまり撮らず、ヒマラヤの山だけに集中したのも、そのせいだったろう。これが本当の自分だったのだと…。そして今後のライフワークの、新たな方向を見定める空間を用意することをも、少しは期待していた。だが、今ヒマラヤは、挑戦すべき対象から愛の対象に変貌した。

もっと留まりたかった。旅のトラブルやホームシックもないし、ヒマラヤの山に飽きた訳でもなかった。パキスタンの後半から雨雲とモンスーンに犯されてヒマラヤが隠れてしまったのだ。山が見えなければ、それはヒマラヤではない。しかしヒマラヤへの別れの旅にはならなかった。愛に変容はしたけれども…。

▼ナガール・コットの休日

将来に求める意味を捨てた中高年、いや高年の好奇心は、失われた過去のロマンをひたすら溯るようだ。96年春、28年ぶりにクンブを訪れたが、11隊の隊員、シェルパ、ポーター、ヤクで賑わうエベレスト・クレイジーに犯されて、早々に引き上げてきた。流れ旅の興奮と情熱はどこにもなかった。今、僕の分身＝ダン吉が百年前のヘディンやスタインや瑞超らの冒険の原点を求めて、ロブノールや崑崙の砂漠に乾いた想いを馳せている。一度行かないと、これも終りそうもない。

ヒマラヤを追い求め、なお向こうにある何かを探ろうと、うなだれたり、歓喜したり、泣きベソをかいたりして流れ歩いた半年の旅であったが、どこかに利便社会からの逃亡ともう一つ、きっと家出願望もあったのかも知れないと密かに思いながら、爽やかに家の扉を開けた。“ただいまーッ”

（終）

原稿募集

紀　行　　遠征、トレッキング、旅　etc……。

ヒマラヤ及び高地アジアに関する地域なら何でも結構です。“記録”だけではなく“紀行”としてお気軽に御投稿下さい。400字詰原稿用紙6〜8枚程度、写真3〜5枚、横書きでお願いします。

またヒマラヤ地域へ出かけられる方、計画書をご送付下さい。各方面からの問い合せ用に使用します。

★　投稿は会員、非会員を問いません、採用分には掲載誌とテレフォンカードを贈呈致します。

★　送り先　〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7　萬栄ビル501号
日本ヒマラヤ協会機関誌編集部　　TEL 03（3988）8474　　FAX 03（3988）8502

小カラコルムからパミールへ(3)

―― ディラン（7,257m）、ムスターグ・アタ（7,546m）連続登頂 ――

岩崎　洋

２日間の休養を取り再度出発、上部の天気は今一だが、明らかに悪天のピークは過ぎており、３～４日後の頂上アタック迄には好天期に入りそうな希望的観測のもとＡ・Ｂ・Ｃへ向った。

ルートは相変らずで、西稜側からの雪崩、セラックの崩壊に気を使いながらの登高を強いられるが、アッラーの気紛か、只単に運が良かっただけなのか、ともかく無事、Ａ・Ｂ・Ｃに辿り着いた。

★

早い時間に着いたので、荷上げと偵察を兼ねて尾根を詰める事にした、早朝であれば尾根の右側に在るルンゼを行く事が出来るのだが、陽が当ってからでは気持ちの良いものでは無い。

雪が無くなればガラガラになるであろうその尾根を、雪が残っていた事に感謝しながら一歩一歩登って行く、高差にして500ｍ程登るとトラバースの開始点である雪稜に出る。夏の日差しを思いっ切り受けた雪面は、一歩を踏み出すのにもかなりの勇気が必要で、10ｍ位１人で先に行ってみるが、ルンゼのトラバースは雪の堅さが一定しておらず不安になり引返す、アイゼン無しでは一寸きつかった。此処から先、下降点迄、荷物をデポ出来そうな場所も無く、雪も悪いので、全ては明日と言う事にして荷物をデポし、ルンゼを一気に下ってＡ・Ｂ・Ｃに帰った。

★

テントの外が明るくなる頃Ａ・Ｂ・Ｃを後にする。早朝は尾根よりもルンゼにルートを取った方が早い。直ぐ上にはスペイン隊の二人が登っている、ルンゼから右の尾根に取り付き、上部は懸垂氷河帯を登り、ダイレクトに6350ｍ辺りに出る予定だと言う。今日荷上げをして明日からアタックとの事、うまくルートを見つけられればスッキリとしたルートになりそうだが、山梨、スペイン、そして我々のルート、どれも気持ちの良いルートとは言い難い。

ルンゼから右に別れて登って行く彼らを見送り、我々はなおも直上して行く、そして左の急な雪壁を登ると尾根上の雪稜になっている所に出る。丁度其処で尾根を直上して行く山梨のルートを横切る事になる。彼らは此処から岩稜を登り再び雪稜、そして懸垂氷河帯をトラバースして、我々と同じ西稜上5800ｍ～6000ｍ地点へ抜けるとの事。

３パーティとも別々のルートだが懸垂氷河の脅威に晒されているという点に於は同じである。晒されている距離が一番長いのは我々のルートだ、しかし、ロープを張る必要は無く、全行程をコンテで行く事が出来るので時間的には変わらない、後は“アッラーの御意志の儘”。昨日の装備を回収して我々は一歩を踏み出した。

★

ルートは分かっているのだが、状態はあまり良く無く、スピードは上がらない、腐ってどうしょうも無い雪だが、無いよりはましと言うもので、ぶつくさ言いながらも少しずつ氷河側に廻り込んで行く、トップを行く鈴木もきつそうだが、私も楽出来るわけでは無い、只、もう少しで未知の領域に踏込んで行けると言う、期待と不安が入り混じった、ワクワクするような、まるで遠い昔遠足に出掛る朝味わったような、そんな気分に浸りながら登っていた。彼が何を思いながら歩を進めていたのか？知る由も無いが、何かしら楽しげな気分を味わっていたに違いない、そうでもなければこんなに苦しいのに、前へ、前へと足を出し続けられるわけがない。

やっとの思いで不安定な所を通過し終えて、さ

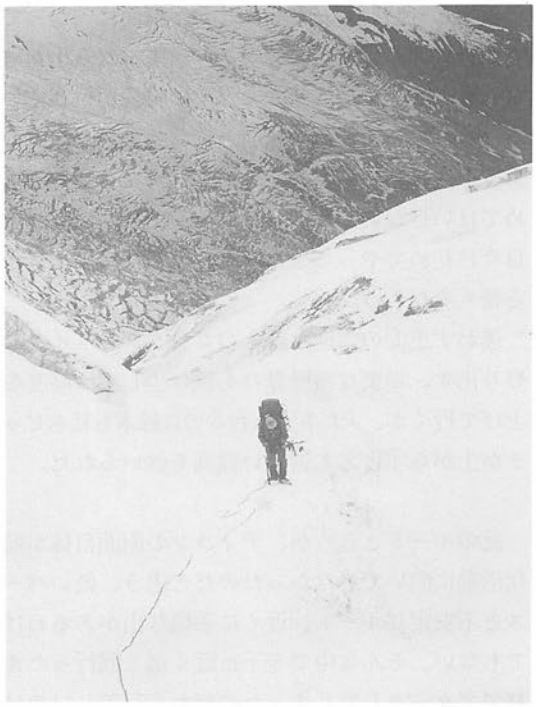
らに恐ろしい雪壁を降り、下降点に着いた頃にはもう日が高かった。「ヤバイ」気温は上昇し始めており、一抹の不安がよぎるが、今来たルートをこれから戻るよりはまだ前進した方が良さそうだ。

ロープをセットして下降に移る、20m位下降した所に丁度良いリスが在ったので保険のつもりでピトンを打ち、ロープを結んだ。ガラガラの斜面から雪壁を落石に注意しながら慎重に下って行く。どうやらロープは氷河に届いているようだ。無事氷河上に降り立ち鈴木にコールする、ロープ1本とピトン2本は下山時に回収する事にしてそのまま残置、他のピトン類、カラビナ、シュリンゲも、ほとんどデポした。軽くして少しでも早く西稜上に出なければ……。此処から高差約千m、安全地帯は無い。

鈴木が氷河に降り立ち、2人で登攀具の整理（といってもあまり無いのだが）を始めたのとほとんど同時に例のいやな音が連続して聞こえ、数メートル離れた雪面に石が突刺さるのが見えた、一瞬2人共上を向いたまま化石状態になり、固まってしまった、未だ氷河に入って一歩も踏み出していないのだ……。早々にピトンを打ちロープの末端を処理して、少しは軽くなったザックを背負い出発、2ピッチ程セラック帯をスタカットで行き、其処からは50m目一杯ロープを延ばしてコンテで「一気に」と言いたい所だが「ノロノロ」と言う表現が正しい位のスピードで、自分より上部に位置するすべての物と音に精神を集中しながら登高を始めた。

何処にクレヴァスが隠されているか知れないので、デブリの厚い所ではその流れのコンタクトラインを登って行く。向かって右側の斜面は見渡す限り懸垂氷河がかかっているので、あまりそっちの方は近ずきたくないのだが、クレヴァスを避けるためにはどうしても右寄りに行かなくてはならないので、緊張の余りか、体力が無い為か、心臓が口から飛び出しそうである、振り返ると50m下に鈴木が同じようにピッケルを突いている、その遥か後方にはヒナルチェ氷河が見えていて、シャクトリムシの様ではあるが確実に高度は上がっているのを知る。左岸の尾根に目をやると山梨隊の人達が雪稜を登っているのが見えた、彼らは未だ

▼西稜に突き上げる氷河を行く



安全圏に居るのでまるで蟻地獄の底から上を見ているようだった、西稜に抜ける迄我々に休みは無い、コールを交わしてまた登り始める。

★

気温が上昇するにつれ、あちこちで小さな雪崩や落石の音が聞こえだした。週間予報では無いが、今日の雪の状態なら大きなのは来ないハズ？だ、今日は大丈夫、来るなら明日以降、登頂して帰って来る頃には落ち切っているだろう。

非常に都合のいい、何の役にもたちそうも無い事の様に思われるかも知れないが、結構真面目に考えていた、何の根拠も無いと言われればその通りだが、B・Cに入って2週間も経っているのだから、気を付けなければいけないが、自分達の判断も一つの根拠だと思う。100％の安全を求めるなら何も苦労してカラコルム迄来ずとも高尾山で良いではないか。

とにかく我々の登山隊は2人だけなので、登りのルートが悪かったら北面に降る事だって出来るし、右へ行こうが、止めて帰ろうがまったくの自由、その場で話し合って決めれば良いのだ、五月の剣岳のような楽しい登山を味わっていた。

★

西稜の雪壁に入った所でもうクレヴァスの心配は無いと判断しロープを外した、斜面に向かって右側は大きく雪崩た痕跡があり、降ったら少々危なそうだが、今の状態なら保険に特約が付いているようなものだ、恐く無いとは言わないが、此の雪壁を抜けるのにこれ以上のコンディションを求めてはいけない、なにしろ365日の中のたった1日今日初めてやって来たのだ、私達には出来過ぎと言えるだろう。

迷わず正面の雪崩た跡とのコンタクトラインを登り出す。単調な雪壁登りを続け少しずつ高度を上げて行くが、未だ5千m台なのに鈴木も私もピッチが上がらずとても苦しい登高を強いられた。

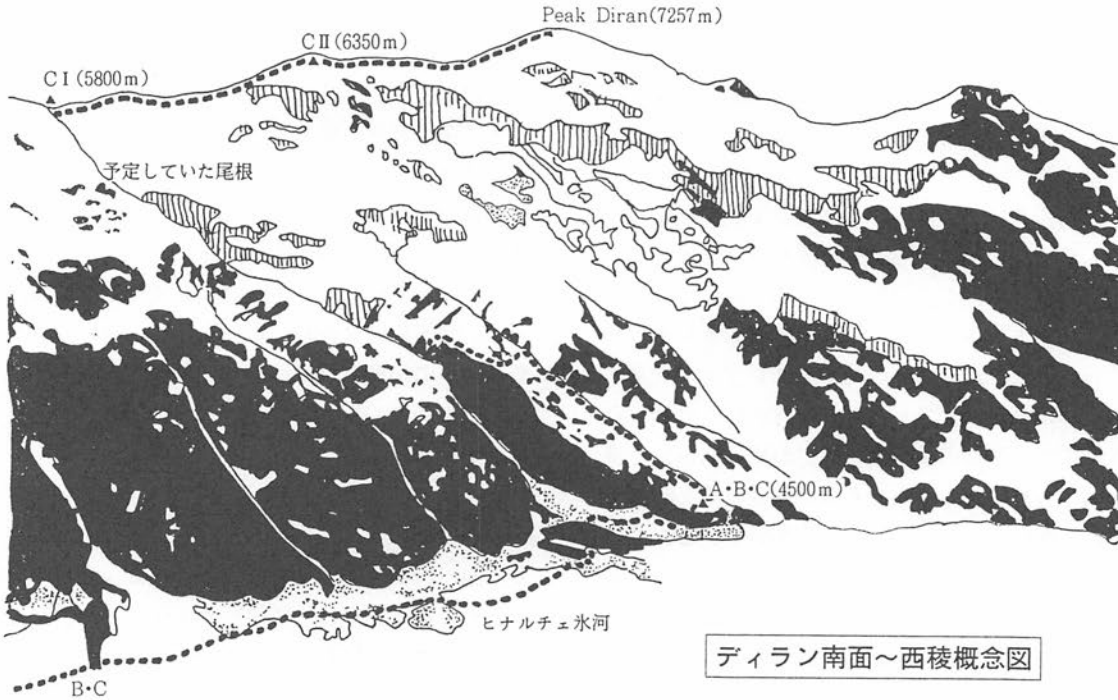
★

此のルートと言うか、ディランの南面自体が順化活動に向いていなかったのだと思う、低いベースと不安定なルート、近くに手頃な山があるわけでもない、そんな中で5千m近く迄2回行ったきりでアタックしてしまったのだから、苦しいのは当然と言えば当然だが、今回の登山の目的を考えれば半分は失敗と言える、パキスタンの場合6千メートル迄は自由に行けるので、ルートにもよるが時間があったら事前に他の場所で順化活動をしておくべきだろう、苦しい思いをするのは自分達なのだから。

★

登るにつれ風が強くなって飛雪が顔に痛い、次第に視界も悪くなりブリザードになってしまった。上部の悪天は予想していたので、かえって雪崩の心配が無くなった事に安堵する。途中であまりの寒さに勇気を振り絞ってフリースを着る、ブリザードの中雪壁でヤッケを脱いだり、ザックを降ろしたり、億却だが、頂上よりも天国が近くなってしまうので放って置く分けにも行かない。

視界の悪い中さらに登って行くと徐々に傾斜が落ちて来て西稜に抜けたと知る。其処は只の吹曝しで、クレヴァス一つ見つからなかった、北面は雪庇が出ているようで近ずけないし、尾根上は固い雪と氷になっていて、穴を掘る事もサイトを切る事すら出来ない。またまた「ヤバイ」視界がきかないせいで広大なプラトーに見える西稜上でそんなに長くウロウロしているわけにも行かないので北面の雪庇の下に回り込める所を探したり、雪庇の重さで出来たクレヴァスに潜り込もうとしたりしたが結局だめで、右往左往の末百メートル位上部に我々を一夜隠まってくれそうなクレヴァスを見つける事が出来た。少々掘り下げてブロックを積みツェルトを張る。なんだか嵐の日の万国旗



ディラン南面～西稜概念図

みたいだが、鈴木が中に転がり込んで来て一言、「いやー黄金の御殿だなー」

風で雪が侵入して来たが気にせず、黄金の御殿で一夜の夢を結んだ。

★

翌日少々風があり視界も悪かったが行動可能、途中のコルでスペイン人の遺体を見つけた、北面からのパーティが来ているのかと思って行ったら最初にザックが在り、少し登ると次にうずくまった彼が其処に居た……。一面乳白色の世界で、なんとなく別世界に行ってしまいそうだったので早々に供物をして6350mプラトーを目差す、我々に何が出来るわけでも無いのだ。プラトー直下はいやな斜面のラッセルとなるが鈴木が頑張り無事抜け出られた。我々の力ではとてもコルから頂上には届かないと思っていたので一安心、一寸早いが風の中「黄金の御殿」を張る。

夕刻より鈴木大不調に落ち入りアタックに不安を覚えるがどうにもならず、2人して水分の補給に努め、寝る。一晩中御殿は旗めき、その度に霜が降り掛り、熟睡は出来なかった。

此のツェルト、パタゴニアで使った時にあちこち擦れて穴が開いており、其処から雪が入って来る、畳と同じでツェルトも新しい方が良いようである。

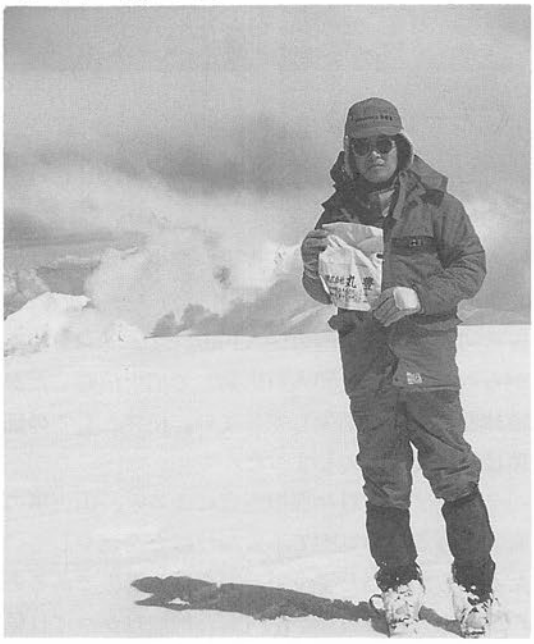
★

7月23日　ブリザード、視界はとても悪く、150m位登って諦め、サッサッとツェルトに戻る、散歩にもならなかった。

★

鈴木は元気が無く不調だと言っているが、私が見る限り頑張れば行けそうなので、一緒にアタックしようと誘うと、付合いの良い鈴木は行ける所迄行くと言うので2人でアタック、待った甲斐あって天気は良い、風も何時の間にか治まり、南にはナンガ・パルバットが大きく、北にはウルタールが近い。フンザも見える。なんて懐かしい光景だろう、鈴木は左前方を登っている。私はもう少し右にルートを取る、氷は固く苦しいがもう少しだ、トラバースして雪壁をあがり、「やった、頂上だ」と思ったらなんと其処はプラトーだった。「話が違う」いやいや来る前に登頂の記録なんて

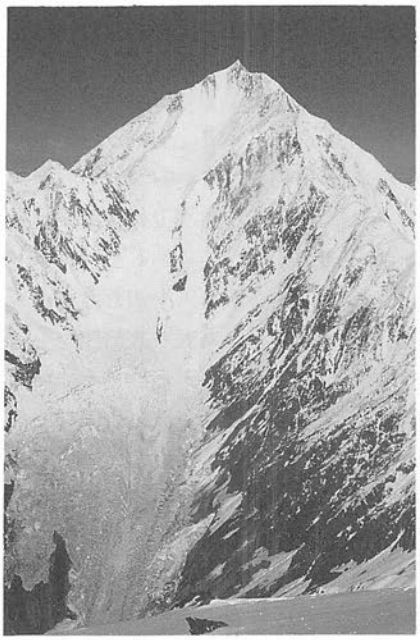
▼ディラン頂上に立つ



一つも見ていなかったのだ。

プラトー上に饅頭の様な小山が幾つか在り、その最後に踏んだ、たぶん北稜の下降点あたりがいちばん高いように見えた、ヒスパー氷河も見えるし、ルプガル・サール辺りの山々も見える、鈴木と握手を交わしディランの半分は終った。14：05分登頂。ベースでウィスキーを飲めばあと半分のディランも終る。

16•JAN•1997（富士山頂にて）



◀ラカポシ東面とバグロット氷河

地域ニュース

《ブータン》

大森林火災発生

カサドゥラプ近くで山火事が発生、3日間延焼し、その被害は250ヘクタール85万ヌーに及んだ。警官50人、森林帯内の住人100人それに近隣の村々からボランティア50人が出動して消火活動したが、植林地の80%が消失してしまい、植林としての価値はゼロになってしまった。

ティンプーの森林課担当官によると、山火事の原因はあるリンゴ園で不要な枝などを燃やしていたところ類焼したようで、完全なる過失であるとの事。山火事で森林が消失した地域はかつては乾いた傾斜のある不毛の土地で、森林の喪失による地滑りが懸念されている。　(KUNSEL)

《インド》

アッサムで暴動続く

1月始め、アッサム北東部のコクラジャールで少なくとも死者33人を出す列車の爆破事故があったが、この事件は部族の暴動によるものと無縁ではない。

1990年以降“戦闘地帯”といわれているアッサムでは、外国人排斥運動をしている過激派ゲリラBLTF (Bodoland Liberation Tigers Force) を一掃するために軍隊を出動させているが、アッサムの州警察によると、非公式な数字ではあるが過去9年間で5千人の命が失われていると云う。ボド族はアッサム州の人口約2千百人中80万人を占めているが、本来彼らはアッサム人の統治能力を信用しておらず、州政府に対して不満を覚えている。

彼らはまた、ボド族以外の者が彼らの伝統的な部族の土地であるボドランドに移住し、無秩序に森林を破壊して大邸宅を建設する事を政府が許可した事に対して怒りを覚えている。

コクラジャール周辺地域では、事件に巻き込まれないように、自発的に夜間の外出を自粛する様呼びかけている。　(ロイター通信)

トピックス

3月にＨＡＪと都岳連の恒例の高所登山事故防止の研究（修）会が下記のとおり開催される。都岳連は高所順応を中心に、ＨＡＪは雪崩を含めた事故全搬とテイクイン、テイクアウト中心の内容となっている。高所の登山やトレッキングを計画されている人は、この機会に両方の参加を勧める。

高所登山 事故と環境対策研修会のお知らせ

ＨＡＪ主催によって下記のとおり開催される。

記

日　時　3月23日（日）　9時～17時
会　場　豊島区民センター　第三会議室
　　豊島区東池袋1-20-10 ☎3984-7601
交　通　ＪＲ、地下鉄、西武、東武各池袋駅下車
　　東口徒歩約5分（豊島公会堂横）
参加費　3,000円
申込み　申込書に参加費を添えて下記まで現金書留または郵便振替で送金のこと。
　　〒170 豊島区東池袋4-2-7萬栄ビル
　　501号　日本ヒマラヤ協会
　　TEL 03-3988-8474　FAX 03-3988-8502
内　容　雪崩からいかに逃れるか／アルパイン・スタイルや有酸素登山に潜む危険／クレバス転落、疲労凍死／落石、落雷／テイクイン、テイクアウト（環境保護活動）

都岳連・第18回高所順応研究会のお知らせ

東京都山岳連盟主催の標記研究会が下記の通り開催される。

記

日　時　3月16（日）　9時～17時
会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター
　　渋谷区神園町3-1　☎03-3467-7201
交　通　小田急線・参宮橋下車徒歩5分
参加費　3,000円
申込み　参加申込書に参加費を添えて下記まで現金書留で送付のこと（〆切3月10日）
　　〒150 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館

日本山岳協会内　東京都山岳連盟
☎ 03(3481)-2397　FAX 03-(3481)2395
内　容　高所障害の実例と対処、高所登山の栄養
ガモフバッグとパルスオキシメーター他

Books

冬のデナリ

西前四郎著

植村直己、山田昇、小松幸三、三枝照雄ら日本有数のヒマラヤ・ニスト達の命を奪った「冬のマッキンリー」。本書は、その冬のマッキンリーに初登頂した登山隊に参加した西前四郎の感動あふれる報告である。

時は今から30年前の1967年２月～３月である。８人の隊員のうち、登山開始早々に１人がクレバスに落ちて死亡。結局登頂に成功したのは３人であった。西前は登頂していない。西前は「セントエライアスとマッキンリー」の報告書の中で、このチームについて「ここには複数のチームに別れて行動するというタクティクスが理解されていなく……」と書いている。

しかし、本書の中で語られている登頂成功後のデナリ峠における３人の死闘の描写には迫真のものがあるし、28年後に会った隊長だったグレッグの語る「命を賭けて冒険にのりだした隊員の意志と気持ちを忘れてないかい」のくだりなど、ヒマラヤ登山と共通したものが数多く含まれている。

残った７人の近況なども報告されていて興味はつきないのだが、残念ながら肝心の西前が本書が上梓される直前の1996年10月10日急逝したという。なんとも皮肉な結果である。写真が美しい。

Ａ５版　445頁　カラー44頁　1996年11月30日
福音館日曜文庫　1,751円

ガッシャーブルムⅡ峰

1988年夏に女子登攀クラブが派遣した登山隊の記録。行動の内容が詳細に報告されているが、その中には「ベルギー隊事件」と名づけられた所謂ラッセルドロボウ式アルパイン・スタイルの実態などもあり、人気の高い山で行われている普通のヨーロッパ人たちの力量を知ることもできる。８年もの時を経てよく刊行されたものである。

Ｂ５版　111頁　カラー８頁
〒　渋谷区初台１-33-５-501　橋本方

ビヨンド・リスク

ニコラス・オコネル著

メスナーからトモ・チェセンまで17人のクライマーに対して行ったインタビューの記録。このうちヒマラヤン・クライマーは、前記の２人の他にリカルド・カシン、ヒラリー、ディームベルガー、ボニントン、ダグ・スコット、クルティガ、ジェフ・ロウ、ヴォルフガング・ギュリッヒが登場する。

インタビューの内容は、各人によって異なるが、クライミングの話しから家族のことなど多岐にわたっており、その中にはそれぞれの著書では得られない多くの教訓が語られていて、グイグイと引き込まれて行く。

たとえば、クルティカがロベルト・シャウアーと登ったガッシャーブルムⅣの登攀について語った中で「３人目の人間がいるという感じでした」と云うくだりは、山田昇と斎藤安平が冬のマナスルを登った後でよく話していた「３人目がいるんだよ」と云う精神状態と全く一致している。

それぞれ、インタビュー時の顔写真が載っているが、どの顔も素晴らしく輝いている。残るフリー・クライマー達のインタビューも含めて、是非座右に置きたい大冊である。

変形　版　494頁　1996年12月15日刊
山と渓谷社　3090円　（手塚　勲・訳）

東京集会のお知らせ

日　時　２月24日（月）午後７時
場　所　ＨＡＪルーム（地下鉄有楽町線東池袋下車４番出口から地上に出て右へ徒歩２分）
又は、ＪＲ大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面２つ目の東池袋４丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩２分）

■財政支援：田村正勝 6500円

国内登山手続きの概要

登山シーズン

ネパール・ヒマラヤの場合、登山シーズンは以前は春、秋、冬の三季制だったが、'93年から夏も解禁され四季制となった。しかし、一般的にはモンスーンの前後プレ（春）、ポスト（秋）がベストシーズンといえる。近年はポストに登山隊が集中している。

冬季の場合、寒冷と強風を除けば比較的天候も安定しているため、この季節に入る登山隊も増えてきている。また慣例として12月１日以前にＢＣを設け、シェルパの手によって下部のルート工作（サガルマータのアイスフォールなど）を進めておいて、12月１日を期に隊員による登山活動にはいる方法や、トレッキングピークなどで充分な高所順応をおこない、12月１日を期に一挙にアタックに入る隊もある。今後、真の意味での冬季登山が問われることだろう。

最近解禁となった夏季については、もともとこの季節はモンスーンの悪天候に当たるため、入る登山隊も少ないが、西ネパールなどあまりモンスーンの影響を受けない地域などには有効かもしれない。

各季節の期間は以下のとおりである。

春季（プレ・モンスーン）	３月１日～５月31日
夏季	６月１日～８月15日
秋季（ポスト・モンスーン）	９月１日～11月15日
冬季	12月１日～２月15日

ネパール登山のための許可取得について

前号に記載したネパールの許可峰は登山対象峰とトレッキング対象峰とに大別される。前者はネパール観光省登山課、後者はネパール山岳協会が窓口となる。後者のトレッキング対象峰はネパール現地にて簡単な手続きによって登山することができるが、前者の登山対象峰については日本国内にて許可取得のための手続きを必要とする。今回、前者の登山対象峰の許可取得について述べてみる。

登山申請から出発までの流れ

計画立案
↓
現地エージェントを通して観光省より目標とする山のブッキング状況の調査
↓
所属山岳連盟・協会、労山へ推薦状交付の手続き
↓
日本山岳協会にて推薦状の交付
↓
現地エージェントに送付し、ネパール政府観光省登山課に申請書類の提出
↓
登山許可書の発行（現地エージェントより登山隊へ連絡がはいる）
↓
登山料の払い込み
↓
隊荷の発送
↓
出発

これまでは、ネパールでの登山許可申請は日本山岳協会の推薦状を取得し、ネパール政府観光省登山課あてに外務省に登山申請書の送付を依頼する。いわゆる外交ルートによる申請であった。

申請手続きの簡略化が叫ばれている現在、日本山岳協会において、この外交ルートの簡略化の申し入れが行われていた。そして今回、外務省に登山申請の送付の依頼をする部分が削除される予定である。今回の手続きはそのことを前提とした。よって登山隊は推薦状を取得したらネパール政府観光省登山課に直接登山申請を行う事となる。

許可申請には規則によって自国の政府、国際山岳連盟（ＵＩＡＡ）によって公認された山岳団体、在ネパール大使館のいずれかの推薦状を添付する事となっている。日本ではその任を日本山岳協会が行っている。

外務省部分の手続きの削除によって多少簡略化されたとはいえ、日本の場合、登山隊が計画を立案し推薦状交付のための手続きに数ヶ月の日数を要してしまう。そのため簡略に推薦状を添付して許可を取得している外国隊のほうがまだまだ日数的に有利であるといえる。特に人気の高い8000m峰のノーマルルートやプモ・リ、アマダブラムなどの山々は注意が必要である。そのため登山隊は目標の山が決まったら利用する現地エージェントなどを通してまず目標とする山のブッキング状況を観光省から入手しておく必要がある。許可の可能性があるようならば速急に推薦状取得の手続きを始める。推薦状が発行されたら現地エージェントへ送付しネパール政府観光省登山課へ提出する。

観光省からの許可交付の連絡は現地エージェントを経て登山隊に入る。

尚、申請書類は登山実施希望月の4ヶ月までに観光省に提出することとなっている。

推薦状取得と登山申請書類の提出

推薦状の取得

1．日本山岳協会（日山協）が推薦状を発行するのは傘下の都道府県岳連・山協加盟団体か日本勤労者山岳連盟（労山）所属団体所属の登山隊に限られる。最近の登山界の流れを受けて、都道府県単位の組織に加入していない山岳団体に対しても、推薦状を交付せざるを得ない状況もでてきており、各方面の声を集約して、山岳団体から直接日山協に申請できる可能性も探られているようだ。

各所属都道府県の山岳連盟・協会または労山にある「海外委員会」などにて推薦状発行の審議を受ける。各所属団体の事務局に委員会開催までに必要書類を提出する。各所属団体によって必要書類などの部数や委員会開催などの形態も異なると思われるので、各事務局に問い合わせたほうがよい。

－ 岳連提出必要書類 －

（東京都山岳連盟加盟団体を例に）

（1）推薦状交付申請書　1通（派遣母体代表者から都岳連会長あて）

（2）和文計画書　15部（計画概要、各隊員の山歴書、地図、ルート図などを記載）

▼推薦状交付申請書〈例〉

〈文例〉　　1993年2月15日

（社）日本山岳協会
会長　斉藤一男　殿

バーバリアンクラブ
代表　金子秀一

海外登山に関する推薦状交付申請書

今般、バーバリアンクラブでは1994年の秋期に、ネパールヒマラヤのプモ・リ峰（7161m）に別紙計画書のとおり、登山隊を派遣することになりました。つきましては貴連盟の推薦状を交付願いたく申請いたします。

1．隊の名称　／バーバリアンクラブ　プモ・リ峰　登山隊・1994年
Barbarian Club Pumo ri Expedition - 1994

2．目標とする山／プモ・リ峰（7161m）

3．実施の時期　／1994年　秋期

4．隊長氏名及び隊員名　／隊　長　野沢井　歩
隊　員　森尾　直康
〃　星野　良子
〃　藤巻　浩
〃　杉坂　勉
〃　荒井　忠男

5．留守本部　／埼玉県桶川市南2-8-14　センチュリー桶川505
清水　修　方
電話048-772-1845

（3）誓約書　1通（登山隊長名にて上記会長あて）

（4）英文アプリケーション（コピー）　1部（日山協提出分のコピー）、隊員のバイオデータ（顔写真付き）、目標の山の地図、写真が必要。

※日山協提出分の書類も同時に提出する。推薦状発行と同時に書類は日山協へまわる。

2．各岳連常務理事会

海外委員会の審議で計画が妥当と認められれば常務理事会の議を経て推薦状が発行される。

3．日本山岳協会の「海外登山常任委員会」にて審議を受ける。

－ 必要書類 －

（1）推薦状交付申請書　2通（各岳連・山協、労山会長から日山協会長あて）

（2）推薦状交付申請書　2通（派遣母体代表者から日山協会長あて）

（3）念書　2通（各岳連・山協、労山会長から日山協会長あて）

（4）念書　2通（派遣母体代表者から日山協会長あて）

（5）和文計画書　15部

（6）英文アプリケーション（本文）　1部
英文アプリケーション（コピー）　1部

（7）各岳連・協会、労山にて審査した経緯書1

His Majesty' s Government
Ministry of Tourism
Mountaineering Expedition Section
Kathmandu , Nepal

〈英文アプリケーション〉

Subject : Application Form of Mautaineering Expedition

Der Sir,

We, being desirous of climbing 7,161 meter high pumo ri Himalayan peak of the kingdom of Nepal in the autumn season of the year 1994, do hereby apply in accordance with the Mountaineering Expedition Regulation No. 2036 and Tourism Regulation No. 2035, do His Majesty' s Governmet, upon the receipt of a licence for carrying out the expedition of the above mentioed peak, we will confine our activities within the limits specified by the Mauntaineering Expedition Rules of His Majesty' s Government. The detailed description of our mountaineering expedition is as follows :

1. Name of the Mountaineering Team : Barbarian club Pumo ri Expedition - 1994
2. Name of the home country : Japan
3. Spnsored by : Barbarian Club
4. Leader of the Expedition team : Mr. Ayumi Nozawai
5. Number of members of the Mountaineering Team : 6 members
6. Purpose of the expedition : Mountaineering
7. Name of the peak to be climbed : Pumo ri 7,161 meter
8. Routes for the expedition to be followed : As per attached sheet
9. Route of ascent : South Ridge
10. Number of local porters to be employed : 50
11. Time and duration of the expedition : Autum season of 1994
From August to Nobember
12. Number of Nepalese workers : One Headman, One Hight Altitude Porter,
Three B.C. Workers
13. Number of the Nepalese members going beyond the base camp : 2
14. Estimated expenditure and the financial source of expedition :
us $ 36, 960. 00 pay bay members
15. Approximate weight of the equipment to be used : about 1,000 Kgs
16. Medium of liaison in Kathmandu : Cosmo Trek, P.O.Box 2541, Lazimpat, Kathmandu
17. Mother tongue of the team members : Japanese
18. Name of agency supplying headman, mountain guide, high altitude porters and workers of the base camp : Cosmo Trek
19. Means of transport for the mountaineering equipment :
a) Outside Nepal : By air
b) Inside Nepal : By truck and porters
20. Any other particulars : None

Ayumi Nozawai

Ayumi Nozawai
Leader of Barbarian Club Pumo ri Expedition-1994
Hainesu Mizonokuchi 602.1-17-1,hisamoto,takatu-ku,
kawasaki-shi,Kanagawa,Japan

▲英文アプリケーション

▼バイオデーター〈例〉

BIODATA OF TEAM MEMBERS

Expedition Team Name : Barbarian Club Pumo ri Expedition - 1994
Capacity in the Team : Leader

写 真

1. Family Name : Nozawai
2. Given name : Ayumi
3. Date & Place of Birth : 8／August／1964 Ibaraki Japan
4. Nationality : Japan
5. Home Address : 206-banchi Otu Daiichi Nishisyo-machi Sakaide-shi Kagawa Japan
6. Present Address : Tuyuzaki-kata 5-32-15 Daizawa Setagaya-ku Tokyo Japan
7. Occupation : Campany Employee
8. Passport No. : MN1181084
9. Previous Visit in Nepal : Makalu - I 1991
10. Duration of Previous Visit : Aug ～ Oct 1991
11. Mountaineering Background : European Alps, 1989
Makalu - I (8,463 m) in Napal, 1991
Nun (7,135m) in India, 1992

Ayumi Nozawai

通（各団体から提出）

日山協海外登山常任委員会では審議というよりも書類の不備がないかだけを見ていると言ってよい。

4．日本山岳協会の常務理事会

海外登山常任委員会で推薦状の発行が決まれば、常務理事会の議を経て正式推薦状が発行される。（手数料２万円）

ネパール政府観光省
登山課に申請書類の提出

5．日山協にて推薦状を取得した登山隊は、英文アプリケーション、隊員バイオタータに推薦状を添付して現地エージェントに送付しネパール政府観光省登山課に提出する。

ネパールの郵便事情を考えると、ネパールに連絡事務所があるＯＣＳ、ＤＨＬなどの国際宅急便を利用したほうが良いと思われる。

外務省に書類の提出

外交ルートが簡略され外務省に申請書類の送付の依頼の必要が無くなったとはいえ、万が一の事故の時にはお世話となるため、インド、中国などの登山隊同様、在ネ日本大使館への便宜供与の依頼状、登山計画書を提出するべきである。又計画書には日夜連絡が取れる電話番号を記載する事。

－ 提出書類及び提出先 －

（１）和文計画書　４部

（２）関係諸機関に対する便宜供与依頼状　４部

（３）念書　４部

外務省大臣官房文化交流部第二課（96年12月現在担当者は根橋氏）

〒100 東京都千代田区霞が関２－２－１

外務大臣官房文化交流部長　宛

☎ 03-3580-3311　内線 2873

（文責　野沢井　歩）

日本・西蔵 友好合同登山

クーラ・カンリⅡ(7,418m)登山計画

趣　旨

日本ヒマラヤ協会（英文略称ＨＡＪ）は、広くヒマラヤ地域の登山、踏査、自然科学、人文科学等について研究、実践するヒマラヤ愛好者約800名で構成する全国組織の任意団体であります。

本会は、1967年の創立以来ネパール、インド、アフガニスタン、旧ソビエト、パキスタン、中国、ブータン等広大なユーラシア大陸の山野を舞台として活動し、これまで登山、踏査隊だけでも80数隊を派遣し成果を挙げて参りました。

また、これらの活動から得られた経験や情報について、会員内外に公表しております。

特に、中国につきましては、1983年に初めて踏査等を派遣して以来、40隊の踏査、登山隊を派遣し、七千メートル峰４座、六千メートル峰４座、五千メートル峰２座の初登頂に成功しております。この中には、1987年に西蔵登山協会と合同で登山したラプチェ・カン（7,367ｍ）も含まれております。

その縁で、このたび西蔵登山協会と親善交流を深めるため、再び合同登山を実施することとなりました。計画段階では、目標をネパールとの国境にあるヤンラ・カンリ（ガネッシュ・ヒマールⅠ峰 7,429ｍ）でありましたが、合同で偵察を行った結果、アプローチに難があることが判明したため、ブータンとの国境近くにあり、未だ頂を踏まれていない名峰クーラ・カンリⅡを目標とすることとなりました。

1997年は、日中国交正常化から25周年にあたり、本会の創立30周年でもあります。さらにはラプチェ・カン初登頂10周年でもあります。これらのことを踏まえて、この登山を通して日本と中国、西蔵の民間親善交流をより深めたい所存であります。

もとより大自然の摂理は、人知を遥かに越えていることを肝に命じて、これまでの経験を充分に活用しながら、細心の注意を払い且つ迅速な行動により、初期の目的を達成する所存であります。

何とぞ、趣旨をご理解戴きまして、皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

1997年１月

日本ヒマラヤ協会
日本・西蔵友好
クーラ・カンリⅡ峰登山隊
隊　長　山　森　欣　一

目標の山・登山目的

1．目標の山
　クーラ・カンリⅡ（7,418ｍ）
　中華人民共和国チベット自治区洛扎県

2．登山期間
　1997年３月25日～５月23日（60日間）

3．登山目的
　クーラ・カンリⅡ峰の初登頂
　テイクイン、テイクアウトの実践（山岳の自然を汚染しない運動）
　日本と中国・西蔵の友好親善交流

隊の構成

1．隊の名称
　日本・西蔵友好　クーラ・カンリⅡ峰合同登山隊1997年
　(HAJ•TIBET Joint Kula KangriⅡ Exp'97)

2．隊員数
　日本側：山森欣一隊長以下７名。西蔵側８名。

3．主催
　日本ヒマラヤ協会／西蔵登山協会

4．推進の組織（日本側）
　日本・西蔵友好クーラ・カンリⅡ峰合同登山隊実行委員会

会　　長：稲田　定重（ＨＡＪ理事長）
委 員 長：山森　欣一（同　専務理事）
実行委員：八木原圀明（同　常務理事）
〃　　尾形　好雄（　　同　　）
〃　　寺沢　玲子（　　同　　）
〃　　中川　　裕（　　同　　）
〃　　野沢井　歩（　　同　　）
〃　　登山隊々員

5．登山隊事務局（留守本部を兼ねる）

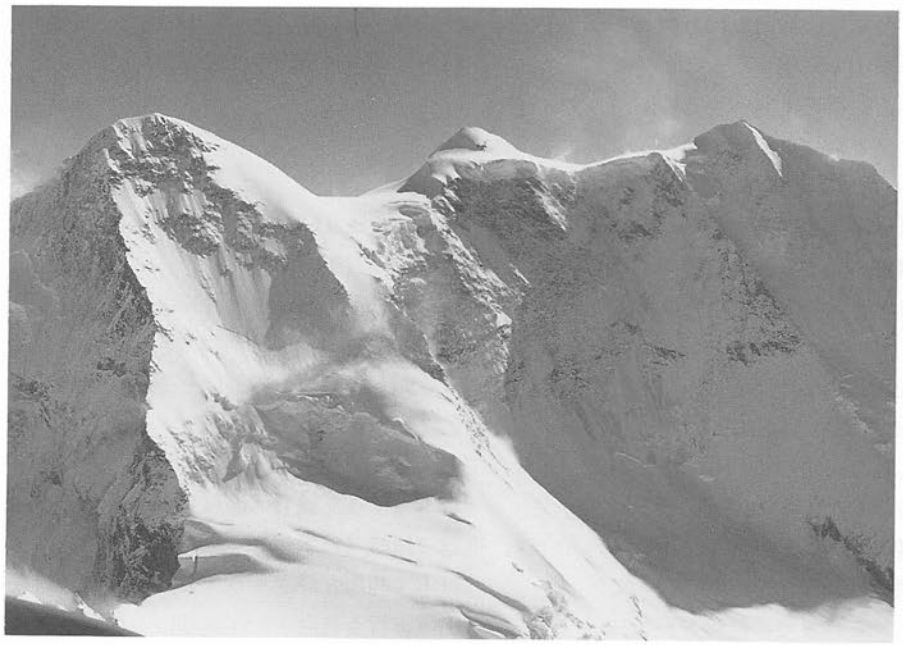
〒170　東京都豊島区東池袋４-２-７
萬栄ビル501号
日本ヒマラヤ協会
ＴＥＬ：03-3988-8474
ＦＡＸ：03-3988-8502

6．現地連絡先

中華人民共和国西蔵自治区拉薩市林郭東路
８号　西蔵登山協会気付
ＴＥＬ：86-891-633-3687
ＦＡＸ：86-891-633-6366

日程概要

3月25日　成田－北京（飛行機）
26日　北京－成都（　〃　）
27日　成都－ラサ（　〃　）
28日～31日　ラサにて出発準備
4月1日　ラサ－モンダ（ジープ）
2日～3日　モンダにて高所順応訓練
4日～5月10日　登山活動（37日間）
13日　モンダ－シガツェ（ジープ）
14日　シガツェ滞在
15日　シガツェ－ラサ（ジープ）
16日～19日　ラサ滞在
20日　ラサ－成都（飛行機）
21日　成都－北京（　〃　）
22日　北京滞在
23日　北京－成田（飛行機）



◀カルジャンから見たクーラ・カンリ山群北面
（左からⅢ峰7,381ｍ）
（Ⅱ峰 7,418ｍ）
（Ⅰ峰 7,538ｍ）
登頂予定ルートはⅢ峰とⅡ峰のコルに続く雪壁を予定。

（撮影 保坂昭憲氏）

隊員名簿

①生年月日・年令　②住所・電話番号
③勤務先名・電話番号　④所属山岳会
⑤高所登山歴

隊長：山森欣一（Yamamori Kinichi）
① 1944年2月　生（53歳）
② 〒134 東京都江戸川区

③ 日本ヒマラヤ協会　☎ 03-3988-8474
④ 山嶺登高会
⑤ 1975 インド、ヌン(7,135m)副隊長
1978 パキスタン、ハチンダール・キッシュ(7,163m)副隊長
1980 ネパール、カンチェンジュンガ(8,586m)偵察隊長
1981 ネパール、カンチェンジュンガ隊長
1982 インド、クン(7,077m)隊長
1984 中国、ナムナニ(7,694m)偵察隊長
1985 中国、ギャラ・ペリ(7,294m)偵察隊長
1986 中国、ゲニ(6,204m)偵察隊長
1987 中国、ラプチェ・カン(7,367m)合同登山隊(チベット登山協会)隊長
1989 中国、シャラリ(6,032m)隊長
1991 中国、雪宝頂(5,588m)秘書長
1991 中国、ミニヤ・コンカ(7,556m)隊長
1992 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)隊長
1992 中国、クラウン(7,295m)隊長
1993 中国、ユイチュ(6,179m)隊長
1994 中国、ミニヤ・コンカ(7,556m)隊長

副隊長：樋上嘉秀（Higami Yoshihide）
① 1944年6月　生（52歳）
② 〒537 大阪市東成区

③ 交楽荘薬店
④ 大阪わらじの会
⑤ 1993 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
1994 中国、ユイチュ(6,179m)登頂
1995 インド、ヌン(7,135m)副隊長
1996 中国、チェルー(6,168m)

登攀隊長：宮崎久夫（Miyazaki Hisao）
① 1949年10月　生（47歳）
② 〒285 千葉県印旛郡

③ ㈱丸豊
④ 雪と岩の会
⑤ 1974 ネパール、ツクチェ・ピーク(6,920m)登頂
1978 ネパール、ヒマルチュリ(7,893m)登頂
1981 インド、ナンダ・カート(6,611m)捜索
1983 インド、ナンダ・カート
1995 インド、サトパント(7,075m)

隊員：干場晃（Hoshiba Akira）
① 1951年6月　生（45歳）
② 〒924 石川県松任市

③ ㈱ソティック
④ 松任風露山岳会
⑤ 1989 中国、シャラリ(6,032m)

隊員：太田康夫（Ota Yasuo）
① 1953年3月　生（43歳）
② 〒721 広島県福山市

③ 自営　④ 無
⑤ 1990 メキシコ、ポポカテペトル(5,452m)登頂
1993 中国、ユイチュ(6,179m)登頂
1994 中国、ルンポ・カンリ(7,095m)

隊員：伊藤政義（Ito Masayoshi）
① 1954年1月　生（43歳）
② 〒511-05 三重県員弁郡

③ 員弁郡農業協同組合
④ 三重泗岳会
⑤ 1982 アメリカ、マッキンリ(6,194m)登頂
1992 ヨーロッパ、オートルート

隊員：吉田健吾（Yoshida Kengo）
① 1972年10月　生（24歳）
② 〒001 札幌市北区

③ フリーター
④ 北海道大学WV部OB会
⑤ 1993 ネパール、ロブジェ東峰(6,119m)登頂
1993 ネパール、イムジャ・ツェ(6,189m)登頂

■ 寸 感 ■

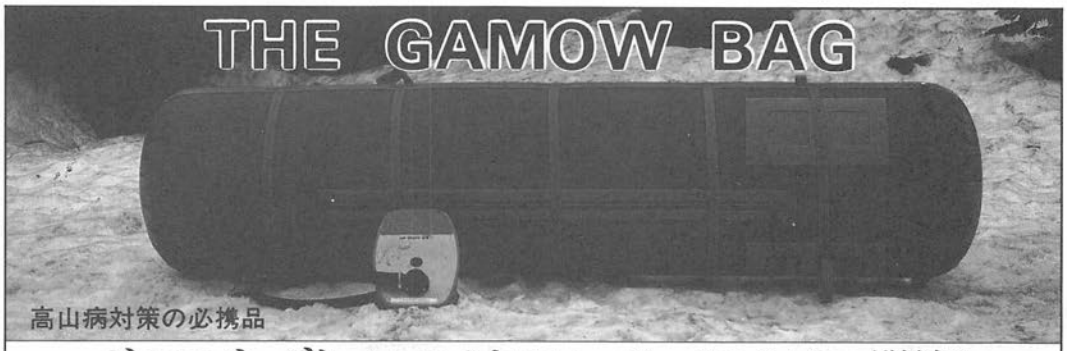
ビヨンド・リスク、冬のデナリと久し振りに興奮できる本を読んだ。2冊に登場する、既に山をリタイアした人が今もいきいきとしているのが嬉しい。 (Y)

事務局日誌（1月）

6日（月） 仕事始め
7日（火） CMAにクーラ・カンリII依頼文書
9日（木） ヒマラヤ303号発送
12日（日） 第18回インド・ヒマラヤ会議（於、かんぽヘルスプラザ東京。参加者36名、遠藤、山森、八木原、尾形、寺沢、中川、野沢井）
17日（金） ユイチュ中止通知
18日（土） ニンチン・カンサ合宿（於、ルーム山森）
19日（日） 第4回中国登山研究会（於、かんぽヘルスプラザ東京。参加者35名。山森、寺沢、中川、野沢井）
21日（火） CMAへニンチン・カンサ議定書送付
23日（木） ネパール、国際山岳博物館協議（於、HAJルーム、山森）
24日～26日 クーラ・カンリII隊合宿（大阪）
27日（月） 東京集会（18名）
28日（火） 小島六郎氏葬儀（於、東京・宝仙寺、遠藤）
31日（金） 谷甲州氏を囲む会（於、ルーム10名）

ヒマラヤ No.304（3月号）

平成9年2月10日印刷　9年3月1日発行
発行人 稲田定重
編集人 山森欣一
発行所 日本ヒマラヤ協会
〒170 東京都豊島区東池袋4－2－7
萬栄ビル501号
電話 03-3988-8474
郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

●ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ／総重量6.7kg)
●パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置／重量380g／単3乾電池4本使用／携帯型)

総代理店 ： 日本メディコ株式会社
レンタル・販売問い合わせ先 ： 株式会社 ティ・エッチ・アイ
〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階
TEL：03-5245-0511 FAX：03-5245-0510
(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

——遠征隊、トレッキング、秘境への旅——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。

マウンテントラベル株式会社 ☎03-3574-8880

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

三井航空サービス代理店2452号

個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク

キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手伝い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。

～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山
シルクロード・秘境旅行
のパイオニア

株式会社 西遊旅行

東京本社　〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階　☎03(3237)1391(代表)

キャラバンデスク　〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階　☎03(3237)8384(代表)

大阪営業所　〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F　☎06(367)1391(代表)

カトマンズ営業所　JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU. NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。

Mt. EXPEDITION SHOP

ICI ISHII SPORTS

- 登山本店／〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601㈹
- スキー&カヌー本店／〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547㈹
- 新宿西口店／〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301㈹
- 新宿南口店／〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店／〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店／〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェアー館／〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店／〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店／〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店／〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店／〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店／〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店／〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店／〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330
- 新潟プラーカ店／〒950 新潟県新潟市天神1-1 プラーカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店／〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店／〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店／〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店／〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店／〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店／〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店／〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メイルオーダー)／〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219

ICI石井スポーツ

事務所／〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004